2021 信州上肢の外科研究会

腱板断裂に対する肩上方関節包再建術：日本から世界への発信

大阪医科大学　整形外科

三幡　輝久

肩上方関節包再建術（SCR: Superior Capsule Reconstruction）は、修復不能な腱板断裂に対して肩甲上腕関節の安定性を高め、骨頭を求心位に保持することにより機能回復をはかる術式である。我々は2007年に世界で初めて修復不能な腱板断裂患者に対して“鏡視下肩上方関節包再建術（ASCR: Arthroscopic SCR）”を行い、良好な治療成績を得ることに成功した。その後毎年症例は増加し、現在までに500例以上のASCRを行っている。ASCRの利点は、肩痛が軽減するだけでなく、肩関節機能も改善し、さらには高率にスポーツや重労働への復帰が期待できるという点である。このため比較的若年で活動性の高い修復不能な腱板断裂患者に対しては第一選択として考えていいと思われる。また高齢者においても、侵襲が小さく術後合併症が少ないことから患者満足度は高い。

最近はSCRの適応は拡大し、現在は修復可能であるが変性の強い腱板断裂、スポーツや重労働をされている活動性の高い腱板断裂患者に対して補強目的のSCRを行った上で腱板修復術（SCR-R: Superior Capsule Reconstruction for Reinforcement of ARCR）を行っている。2013年からすでに約200例のSCR-R を行っているが、いまだに1例も再断裂は起こっていない。また修復不能な腱板断裂にHamada grade 4あるいは5を合併する場合には、従来の人工肩関節置換術にSCRを追加することで良好な治療成績を得ている。羊ヶ丘病院の岡村先生はテフロンパッチを用いてASCRを行われており、術後2年以上経過しても良好な治療成績が持続していると報告されていることから、新しいSCRとして注目される。

2007年に日本で発祥したSCRは今では世界の国々で行われるようになった。しかしSCRは今のなお進化を続けており、近い将来には次世代のSCRを世界に発信したいと考える。